

指定管理者制度導入施設の管理運営状況等に関する評価表
(評価対象年度: 令和6年度)

<施設概要>

施設	せんがわ劇場
施設の設置目的	市民の舞台芸術の創造及び発信の拠点とするとともに身近に芸術文化に触れる機会を提供することにより、芸術文化の振興を図る
指定期間	令和6年(2024年)4月1日～令和11年(2029年)3月31日
指定管理者	公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団
所管部署	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課

<施設所管部署における全体総括>

公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団は、令和6年度が財団後期基本計画の初年度にあたり、地域の多彩な人材や関係団体との連携をはじめ、地域の貴重な文化資源の活用や市が標ぼうする「パラハートちょうふ」の理念の下、共生社会の充実に向けた文化芸術の推進に取り組んだ。令和6年度は、新たに芸術監督制を導入し、舞台芸術の活性化を図りながら、学校や福祉施設などのニーズに応じた演劇・音楽のアウトリーチ活動を行い、地域との交流を深めた。また、新たに相互協力提携に関する協定を締結した桐朋学園芸術短期大学、白百合女子大学と連携した事業を実施し、仙川地域だけでなく市内全域に向けて文化芸術に関する取組を発信した。

こうした取組を踏まえ、文化施設3館の連携及び各施設のコンセプトを生かした効果的な施設運営における創意工夫や、利用者の誰もが使いやすい施設運営に取り組むつつ、多様な文化芸術に触れる機会を創出し、市民の文化芸術活動を促進するため、市基本計画の施策に位置付けた基本的取り組みを推進する役割を担ったと総合的に評価した。今後も、「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」及び令和7年3月に市が策定した「調布市文化芸術推進ビジョン」に基づき、多様な主体と連携した文化芸術の推進につながる施設の管理運営に向けて指導する。

総合評価	A
-------------	----------

総合評価基準

以下、施設の管理運営等に関する各視点に基づく評価に対応した係数の合計で総合評価を決定する。

<係数>
s→10
a→8
b→6
c→4
d→2

各視点に基づく評価の
係数合計を算出

<総合評価基準>

S(特に優れている)
→42 ～ 44(かつ各視点でc評価が無い)
A(優れている)
→36 ～ 41(かつ各視点でd評価が無い)
B(良好)
→26 ～ 35
C(要改善)
→16 ～ 27
D(要抜本的見直し)
→10 ～ 15

＜施設の過去3箇年の主な管理実績＞

項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
事業参加者数	5324人 ライブ配信視聴回数 862回 配信視聴回数 1605回	8504人 ライブ配信視聴回数 260回	4875人 ライブ配信視聴回数 42回
貸出施設稼働率	ホール:83% リハーサル室:85%	ホール:92% リハーサル室:83%	ホール:92% リハーサル室:94%
指定管理料(市決算額)	4976万6629円	5013万6434円	5600万6296円
利用料金収入	781万7850円	1045万4950円	1219万3950円

＜施設の管理運営等に関する評価(各評価区分の考え方は下段の「評価の目安」を参照)＞

業務の実施体制	確認項目	確認欄
	業務マニュアルの整備(職員への周知含む)	<input type="checkbox"/> 有(更新) <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	緊急時におけるマニュアル・連絡体制の整備(職員への周知含む)	<input type="checkbox"/> 有(更新) <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	職員の育成(研修・緊急時対応等の訓練)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施
	＜評価におけるその他の視点＞ ・個人情報の保護及び情報漏洩防止のための措置 ・職員の勤務条件・待遇における関係法令の遵守 ・協定書等を遵守した業務の再委託 など	
	・適切な人員配置 ・適時適切な市との情報共有	
	施設所管部署の総括（上段の確認項目や評価の視点を含めた総括）	評価(b～d)
	市の基本的な施策を踏まえ、市民や地域、関連分野と連携しながら、文化芸術の推進に向けた取組を推進するアートマネジメント人材を育成するため、文化芸術に関する専門知識だけでなく、メンター制度の充実や職層に応じた研修を体系的に実施した。	b

評価の目安(b～d)

b: マニュアル整備や研修等が適切に実施されており、その他、協定内容や関係法令等が遵守されている。

c: マニュアル整備や研修等の実施、協定内容や関係法令等の遵守について一部改善を要する点がある。

d: 業務の実施体制について、抜本的に改善が必要なものがある。

施設の維持管理	確認項目	確認欄
	施設・設備についての保守点検の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施
	施設・設備に不具合等があった場合の修繕等の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 不具合等有(20件(うち対応 20件)) <input type="checkbox"/> 無
	備品の適切な管理(台帳との照合)	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施
	<評価におけるその他の視点> ・利用者の安全確保対策 ・適切な衛生管理(清掃対応, 感染症対策など) ・指定管理者として必要な保険への加入 など	
	施設所管部署の総括 (上段の確認項目や評価の視点を含めた総括)	評価(a～d)
	施設のライフサイクルコスト縮減のため, 空調及び照明器具の運用について検証を行い, 省エネルギー化に取り組むとともに, 設備不具合の早期発見・早期対応により, 建物全体の長寿命化を図るため, 日常定期点検を積極的に実施したほか, 20件の修繕を行い, 安心・安全な施設の維持・管理に努めた。	a

評価の目安(a～d)

- a: 施設・設備の点検や修繕等への適切な対応に加え, 先進的な対策の導入など, 優れた安全対策や維持保全などが行われている。
 b: 施設・設備の点検や修繕や備品管理, 安全対策などをはじめ, 施設の維持・管理が適切に実施されている。
 c: 施設・設備の点検や修繕等の施設の維持・管理について一部改善を要する点がある。
 d: 施設の維持・管理について, 抜本的に改善が必要なものがある。

サービスの提供	確認項目	確認欄
	計画した事業(サービス)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり <input type="checkbox"/> 一部未実施 <input type="checkbox"/> 多くが未実施
	利用者数の状況(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 前年比5%超増 <input checked="" type="checkbox"/> 同水準(±5%) <input type="checkbox"/> 前年比5%超減
	貸出施設稼働率の状況(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 前年比5%超増 <input checked="" type="checkbox"/> 同水準(±5%) <input type="checkbox"/> 前年比5%超増
	新たなサービス(事業)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 有(2件) <input type="checkbox"/> 無 主な実施内容:芸術監督の設置及び芸術監督演出作品の上演/桐朋学園芸術短期大学と相互協力提携に関する協定の締結
	サービスの見直し(利用方法・事業回数・時間帯等)の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 有(1件) <input type="checkbox"/> 無 主な実施内容:若手舞台芸術家グループ「DEL(デル)」の運営要綱の策定
	職員の接遇態度(言葉遣い, 態度, 服装, 問合せへの対応等)	<input checked="" type="checkbox"/> 優れている <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 要改善
	<評価におけるその他の視点> ・利用者にとって分かりやすい施設利用案内や事業等に関する情報提供 ・施設の設置目的に沿ったサービスの提供及び事業の実施 ・協定書等に基づく施設の開館日, 開館時間の遵守 ・利用申請等に対する迅速な対応 ・利用者に対する附帯設備・備品等の適切な提供 ・苦情や要望等に対する適切・迅速な対応及び市への報告 ・施設の利便性向上・利用促進に関する取組・利用者満足度アンケート調査等の結果 など	
	施設所管部署の総括 (上段の確認項目や評価の視点を含めた総括)	評価(s~d)
	施設の利用率は, 92%であり, 前年度比で同水準となっている。施設利用者アンケートによる満足度(「どちらかといえば満足」を含む。)は98.0%であり, 前年度と同程度の高い水準を維持している。また, 新たに芸術監督を設置し, 舞台芸術の取組の活性化を図っているほか, 桐朋学園芸術短期大学と相互協力提携に関する協定の締結をするなど地域との連携を深めている。	a

評価の目安(s~d)

s: サービスの提供(施設利用, 事業実施など)について, 特に優れた実績がある。

a: サービスの提供(施設利用, 事業実施など)が適切に実施され, かつ, 前年度実績を上回る実績が複数あるなど, 優れた実績がある。

b: サービスの提供について協定書等の内容に基づき, 概ね適切に実施できている。

c: サービスの提供について協定書等の内容に基づく対応が実施されていないものが散見され, 一部改善を要する点がある。

d: サービスの提供について, 抜本的に改善が必要なものがある。

財務 の 状 況	確認項目		確認欄
	収支計画を踏まえた実績	利用料金収入	<input checked="" type="checkbox"/> 計画比+5%超増 <input type="checkbox"/> 同水準(±5%) <input type="checkbox"/> 計画比-5%超減
		支出総額	<input checked="" type="checkbox"/> 計画比+5%超 <input type="checkbox"/> 同水準(±5%) <input type="checkbox"/> 計画比-5%超
	収入確保や経費縮減の取組		<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 主な取組内容:助成金の獲得
	<評価におけるその他の視点> ・指定管理料の適切な管理(帳簿等の整備) ・利用料金等に関する適切な収納及び還付事務の実施		
	施設所管部署の総括 (上段の確認項目や評価の視点を含めた総括)		など 評価(s~d)
	文化庁や日本芸術文化振興会の助成金等の獲得を確保したほか、電気使用量の削減等による経常経費の縮減にも積極的に取り組んだ。		a

評価の目安(s~d)

- s: 収支計画等に基づく適切な運営等の実施に加え、収入増加や経費縮減に関して、特に優れた対応・実績が見られる。
a: 収支計画等に基づく適切な運営等の実施に加え、収入増加や経費縮減に関して、優れた対応・実績が見られる。
b: 収支計画等に基づく適切な運営が概ね実施できている。
c: 収支計画等に基づく適切な運営や、その他財務に関連する取組に一部改善を要するものがある。
d: 収支計画等に基づく適切な運営や、その他財務に関連する取組に関して抜本的に改善が必要なものがある。

その他	確認項目	確認欄
	地域等との連携による取組の実施	☑実施 ☐未実施 主な実施内容: 桐朋学園芸術短期大学や白百合女子大学, 仙川駅前商店街などと連携し, 文化芸術活動を展開した／市内の中学校, 学びの多様化学校分教室, 児童館, 母子家庭支援施設などでアウトリーチ事業を実施した
	地域貢献活動の実施	☑実施 ☐未実施 主な実施内容: おらほせんがわ夏祭りでのファミリー層向け舞台公演の実施／仙川駅前商店街「スタンプラリー」チェックポイント
	<その他評価の視点> ・省エネルギー, 省資源等の取組による環境への配慮 ・市民雇用の取組 ・地域経済の発展に資する取組 など	
	施設所管部署の総括（上段の確認項目や評価の視点を含めた総括）	評価(s～d)
	文化芸術活動の発信拠点として, 桐朋学園芸術短期大学や白百合女子大学, 仙川駅前商店街等の地域における多彩な主体と文化芸術活動を通じた積極的な連携を図っている。 また, せんがわ劇場周辺地域だけでなく, 市内全域に向けた舞台芸術の普及啓発を図るため, 市内施設へのアウトリーチ事業の実施先の拡充を図り, 地域への貢献活動を推進した。	a

評価の目安(s～d)

- s: 4つの視点に関する取組以外に, 地域等との連携による事業や地域貢献活動への積極的な参加などにおいて, 特に優れた対応が見られる。
 a: 4つの視点に関する取組以外に, 地域等との連携による事業や地域貢献活動への積極的な参加などにおいて, 優れた対応が見られる。
 b: 地域等との連携による事業や地域貢献活動への参加などの取組が行われている。
 c: 地域等との連携による事業や地域貢献活動への参加などの取組に関して一部改善を要するものがある。
 d: 地域等との連携による事業や地域貢献活動への取組について, 抜本的に改善が必要なものがある。

＜指定管理者における全体総括＞

令和6年度は、財団基本計画期間(令和元～10年度)後期及びせんがわ劇場の第2期の指定管理事業計画の初年度であり、前年度に国、東京都及び調布市の動向を踏まえ策定した組織の基本理念や施設のミッション・ビジョンを整理し、これに伴う事業内容の見直しを行いました。文化芸術の多様な価値を推進するため、市及び地域の多様な主体との連携を基本に、文化会館たづくり、グリーンホール、せんがわ劇場の3施設を特性に応じ一体的に活用しながら、各事業に取り組みました。

4月1日からは新たに、俳優座劇場などの著名な劇場のプロデュース公演を手掛ける演出家の小笠原響氏をせんがわ劇場の芸術監督として迎え、芸術性・創造性の高い公演制作を起点に、舞台芸術の活性化を図りながら、学校や福祉施設などのニーズに応じた演劇・音楽のアウトリーチ活動を行い、地域との交流を深めました。芸術監督が演出する公演事業「ドクターズジレンマ」は主要新聞、演劇専門誌などで劇評が多く取り上げられ、仙川地域から本格的な舞台芸術を発信し、入場率91.2%、来場者満足度95%を記録するなど、好スタートを切ることができました。また、演劇コンクール出身者を中心に構成する「DEL(デル)」のメンバーが企画制作及び実演家として参加する機会を全ての劇場主催演劇事業で設定し、次世代を担う舞台芸術活動者の育成を図りました。このほか、今年度新たに相互協力提携に関する協定を締結した桐朋学園芸術短期大学のほか、白百合女子大学と連携した事業や、市内の各公共機関でのアウトリーチ事業を実施し、仙川地域だけではなく市内全域に向けて文化芸術を発信しました。学びの多様な学校分教室でのアウトリーチは、市教育委員会と緊密に連携し、生徒のコミュニケーション能力の向上などに貢献しました。

施設管理運営では、アンケートや窓口など多様な手段を通じて利用者の声に耳を傾け、可能な限り要望に対応したことで、誰もがアクセスでき、利用しやすい施設運営を行いました。災害時における対応では、市との連携の下、台風時の避難所開設を行ったほか、外国人避難者を想定した図上訓練などを実施しました。

組織運営では、メンター制度の充実を図ったほか、文化芸術に関する専門的な知識を深めながら、市との連携、市民や地域、関連分野との連携を推進できる総合的なスキルを備えたアートマネジメント人材の育成に引き続き取り組みました。

財務会計では、物価高騰の影響による収支の影響を踏まえ、適切な執行管理とともに、外部助成金の獲得など自主財源の拡充に取り組みました。